

F-3 東北・北海道地区居住者の老化現象に関する家政学的研究(第3報)

—— 東北地区居住者の老化度の性別・年齢別の比較 ——

宮城学院大 後藤たへ 吉田清一郎 白百合短大 沼倉久枝 生活学園
短大 細川和子 金津短大 ○佐川澄子 米沢短大 榎 光章 東北女大 葛西文造

目的 東北地区居住者の老化現象の実態調査を行う。その性別・年齢別に(た標本について、総合・機能・外見・精神意識の老化度と、各項目評点を求め、比較検討したので報告する。

方法 青森・岩手・宮城・山形・福島の各県に居住する、満65~70才に至る、男子264名、女子319名、計583名について、総合・機能・外見・精神意識の老化度のききとり調査を行った。それらを性別・年齢別に集計し、グループに分類した標本を比較検討した。

結果 (1) 性別の標本からは、男女とも外見老化のみ有意差が認められ、高年齢程老化が進んでいると判断される。

(2) 年齢ごとの標本では、70才を除いて、外見老化の莫ご女性の老化が進んでおり、有意差が認められる。また、総合老化も、68才、70才を除いて有意差が認められ、女性の方が老化が進んでいる傾向が認められる。

(3) 調査項目の平均点を比較すると、機能老化では「視力障害」「夜間頻尿」、外見老化では、「皮膚」「歯」、精神意識老化では、「家庭外の役割」「趣味」「家庭内の役割」「物忘れ」といった項目の平均点が大きい値を示した。性別で見ると、女性の方が平均点が高く、かつ、項目数は男性のそれに比較して大きい。特に外見老化の全項目は女性の方が多い結果となっている。